

# 梅田クラブクアトロ

UMEDA CLUB QUATTRO

No. 03-021-2012作成

改修・保存

その他

発注者	株式会社パルコ、梅田開発特定目的会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 築32年の旧映画館ビルをライブハウスへコンバージョン

### ■旧店舗からの移転計画

旧店舗は心齋橋クラブクアトロとして20年間ライブハウスを営業の後、築32年の旧映画館ビルへ移転することとなった。

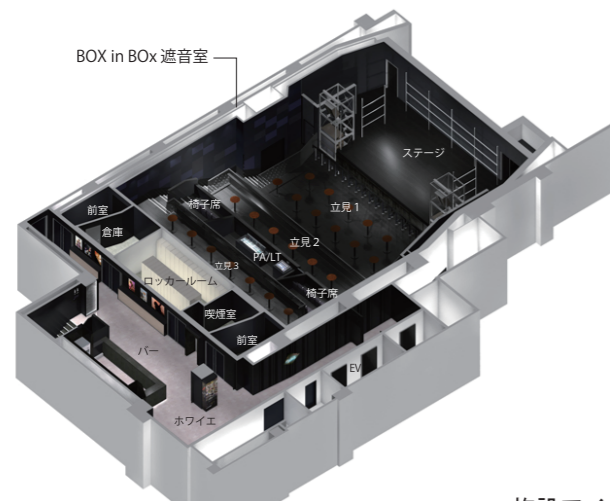
旧映画館の段床スラブなど一般転用しにくいビルの構造を、雑壇型のフロア構成に組み替えることで、ライブハウスに最適な空間として再生させた。

### ■演者と観客の一体感を高める雑壇型フロア構成

雑壇型のフロア構成は、臨場感あふれる最前列、演者と見つめあえる2段目、落ち着いた3段目椅子席、全体を俯瞰できる最後列により、観客が観やすく、演者からも全てを見渡せるまとまりあるホール空間を生み出した。演者をより気持ちよくパフォーマンスさせ、観る人、観られる人の良好な関係づくりに努めた。

### ■ライブを最高の演出とするために随所にちりばめた計画

ライブ発生源音源60dB減衰させる遮音性能をもち、最適な音響性能を備えたホールとし、建物全体、隣接室への縦ノリ振動を制御するTMDにより、ライブそのものを上質に観賞できる空間とした。また、ライブに華を添えるホール内グラデーショナル色の壁は、ライブ中のライティングの明暗に呼応し、ライブに臨場感を与え、出演者、観客を一体化させ盛り上げる。更に防振床によって制御された適度な振動が観客をライブへの陶酔に誘う計画とした。



施設アイソメ



どこからも観やすい客席をもつ新たなステージ



ライブ演出と呼応する壁面カラー

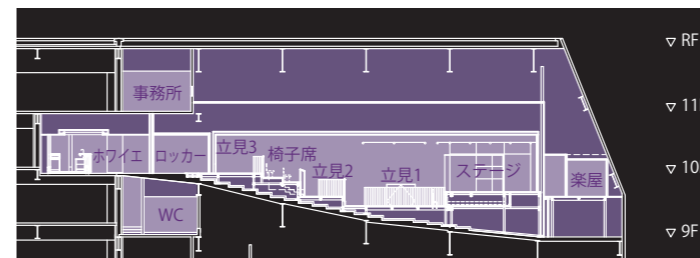


ライブでの一体感を高める雑壇状の客席

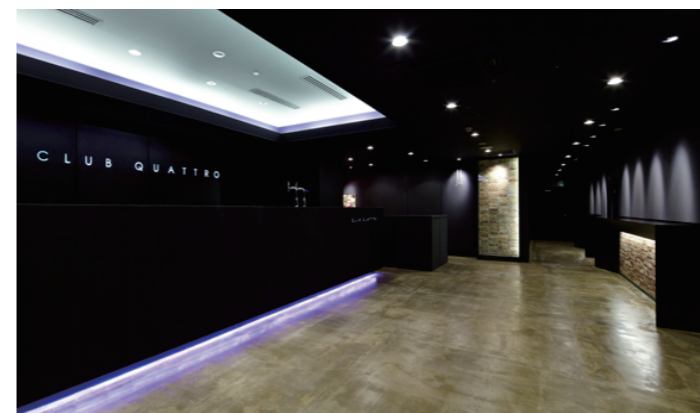
### ■継承される伝統と新生するホール

これまでのクアトロの世界の継承と新クアトロの世界の創造を試みた。旧心齋橋店に設置されていたロゴサイン、壁レンガなどを移設したほか、旧店舗では来客は見るできなかったアーティストサインが遺る楽屋扉を新店舗の来客エリアに展示することで、単なるリニューアルではなく、場所に遺された世界観や想いを新たなホールに継承し、物理的なものと、精神的なもの双方によるサステナブルな施設づくりを目指した。

合わせて、新生クアトロを表す新たなデザインとして、力強さのある仕上材の選定とシャープな形状のバーカウンター・ホール内部、クールな印象を与える新ロゴサイン等を生み出し、新旧双方を感じる空間を創った。



既存段床スラブを活かしたホール形状



新たなイメージのホワイエ内バーカウンター



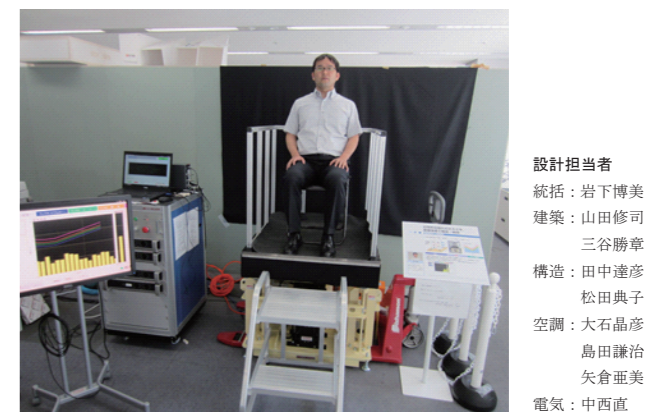
移設した楽屋扉、壁面レンガ、ネオンサイン



旧店舗から移設したサイン



建物振動制御するTMD（制振装置）



震動実験台による防振性能、振動の質の検証

設計担当者  
統括：岩下博美  
建築：山田修司  
三谷勝章  
構造：田中達彦  
松田典子  
空調：大石晶彦  
島田謙治  
矢倉亜美  
電気：中西直

### 建物データ

所在地	大阪府大阪市
竣工年	2012年
敷地面積	1,328㎡
延床面積	10,668㎡（改修部分1,200㎡）
構造	S造一部SRC造
階数	地下2階、地上11階、塔屋2階（改修部分9-11階）

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- LR2.2. 非再生性資源の使用量削減（既存躯体、材料の継続利用）
- LR3.3. 周辺環境への配慮（騒音防止、振動制御）